

## 越ヶ谷にあつた泪橋と六本木刑場跡

加藤 幸一

かつて越ヶ谷宿の本町や中町なかまちの葬送の列が、日光街道を通り、大沢齒科医院の前までくると、葬列のお供をしてきた人々がここで喪主からの挨拶を受けてお別れをし、列から離れたという。その後、喪主を含む身内のみの葬列は天嶽寺に向かうため、大沢齒科の脇の道に入り、現在の足立越谷線のすぐ手前で右の道を進み、会田出羽家なみたばし(注1)跡の前を通って「新道しんみち」(地元の地名)を抜け、泪橋を渡り、元荒川の土手道(古道)にあがる。そして土手道を北に向かつて元荒川に架かる寺橋てらばし(注2)を渡って天嶽寺に到着する。

(次の頁の地図参照)

一方、右に折れずに直進する道は御殿表御門通りに通じる道となる。

「新道」の大師堂だいしで弘法大師の縁日である二十一日に毎月念仏をあげていた女性の年寄たちの念仏講は、新盆にいぼんの時は特別であった。月遅れのお盆のうち、迎え盆のあとの八月十三日に、地元に住む新盆にあたる家々に訪問して新仏しんぼとけに念仏をあげ、御馳走とともに布施をいただくという習わしとなっていた。そして新盆にあつた家々の念仏が終了すると、最

後は泪橋まで赴き、そこで念仏をあげて解散したという

(注3)。

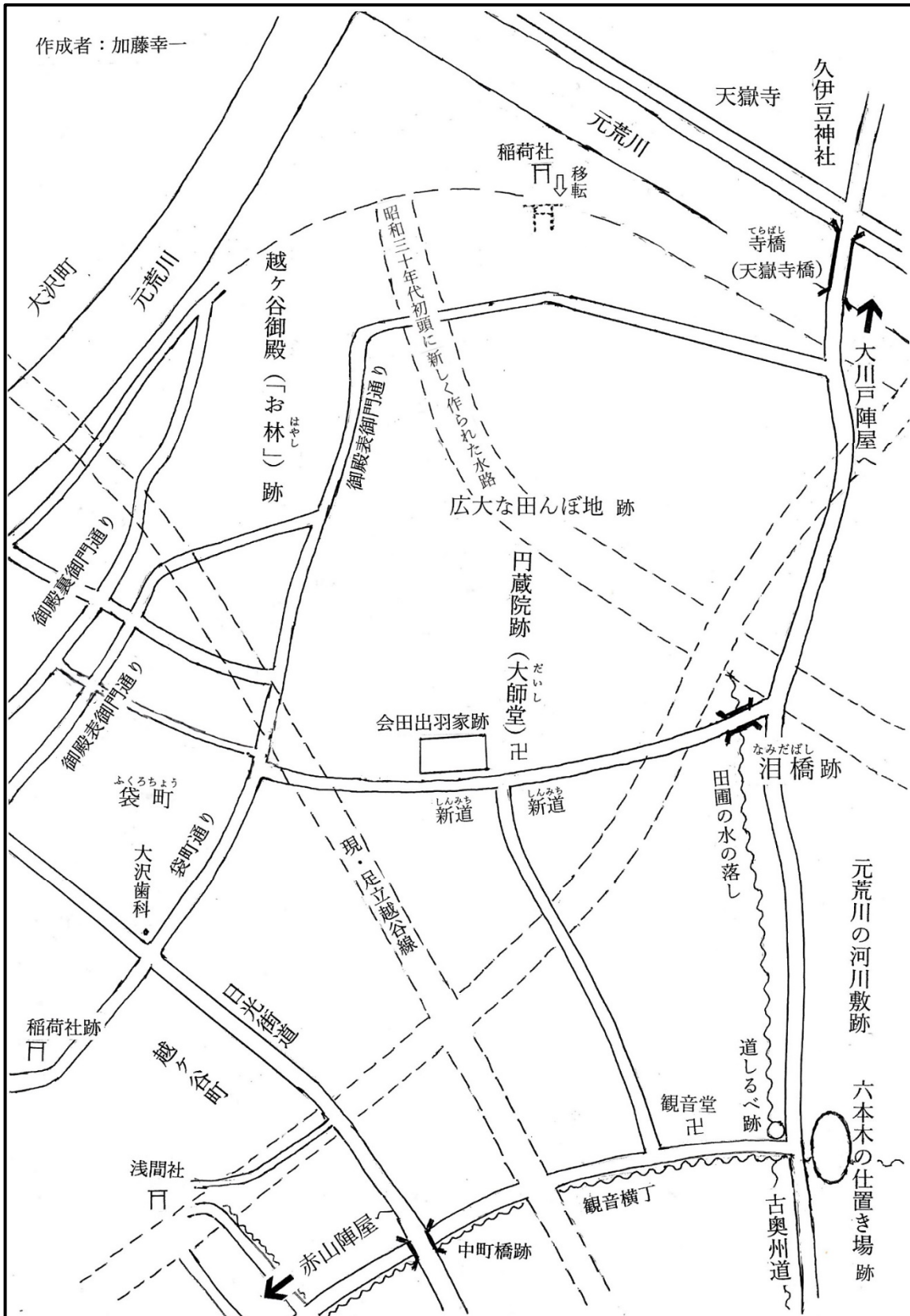
なぜ泪橋と呼ばれたかについては残念ながらはっきりとは伝わっていないが、当時の新盆の様子から、戦前戦後の泪橋は地元にとつては葬儀やお盆に関して縁の深い橋であったことは確かである。泪橋は亡き人との涙を流してのお別れの場所としてとらえていたようである。

しかしながら、本来の江戸時代の泪橋の由来は、これとはだいぶ異なっていた。その謎を解く鍵が江戸の町の泪橋である。たとえば東海道筋の品川宿の鈴ヶ森や日光街道筋の南千住きんやの山谷こづかづぼらの小塚原のお仕置き場(処刑場)に関わる泪橋である。鈴ヶ森も小塚原も刑場に行くにはこの泪橋を渡った。

「泪橋(涙橋)」という橋は、処刑されることになった罪人の家族や身内の者らが罪人をひそかに見送りに来て、その橋で罪人と今生の悲しい別れをして共に涙を流したことに由来するのである。

越ヶ谷にある泪橋は、江戸の泪橋のいわれの影響を受けたと考えられる。江戸時代には、この近くの元荒川際に仕置き場があつた。六本木のお仕置き場である。六本木の由来は土手際に六本の木があつたからであろう。現在、土手道沿いの

越ヶ谷四丁目と柳町との境の所である。仕置き場であるので、しめとして、この道を通る旅人や地元の人に目立つようにこ  
 罪人を斬首した刀はそばの元荒川の水で洗い、その首はみせ の場所にさらし首にされたのであろう。



この六本木と呼ばれた場所から東の河川敷に向かって下りると元荒川に突き当たる。一方、西側は観音横丁（音和町）の道（注4）となっていて、日光街道に架かる中町橋（今はない）に通じ、その先の赤山道（注5）鳩ヶ谷や赤山陣屋に通じる道）へとつながっている。この土手道は吉川橋方面から続く元荒川沿いの土手道のことで、日光街道ができる前の古道である。北に進んで元荒川に架かる寺橋（天嶽寺橋、現・宮前橋）を渡ると天嶽寺・久伊豆神社や松伏にあった杉浦家の大川戸陣屋に通じる江戸時代の重要な道でもあった。そのため六本木沿いの土手道の北西側角地には万延元年（一八〇〇）造立した道しるべ（注6）の庚申塔があったと思われる。多くの人々はこの六本木のお仕置き場そばを通ったのである。お仕置き場の南隣には、日光街道の中町橋方面から観音横丁に沿って流れて来る六本木落とし（現在は暗渠）もあった。また幕府が人々に法度や掟書などを周知させる高札場も近くにあったと思われる。

泪橋と仕置き場の話は、東京の荒川の南千住の地にも品川の地にも見られるが、越ヶ谷の仕置き場は、こうした江戸の影響を受けて泪橋が設定されたと考えられる。越ヶ谷は宿場として、江戸との交流が盛んだったからであろう。



前方奥が土手道（古道）、手前に泪橋があった。写真中の黒の楕円の所である。



泪橋の下に流れる排水の水路で、写真は南方の下流方面を写す。

(注釈)

注1 越ヶ谷五―四―五六の関根家及びその両側

注2 江戸時代は「天嶽寺橋」、現在は「宮前橋」と呼ばれる。  
かつては車も通る橋であったが、現在は人道橋となっている。

注3 大師堂に関する記述は新道の松村宏司氏の談による。

注4 元文四年(一七三九)、越ヶ谷袋町の髪結の長右衛門が、越ヶ谷町の大火を招いた付け火(放火)の罪で、

越ヶ谷町引き回しの上、六本木仕置場で火あぶりの極刑に処せられた。

(「市史編さんだより」244「越ヶ谷宿の放火一件」)

注5 日光街道ができる前の古道と思われる。

注6 鳩ヶ谷や赤山陣屋に通じる道。

注7 道しるべ(↓下図)

正面に文字で大きく「庚申塔」と書かれたこの庚申塔は、道しるべを兼ねた庚申信仰の石塔である。現在は越ヶ谷の箕輪家の敷地内に保管されている。

この道しるべによると、元荒川と反対側の観音横丁側を下って西に進むと、日光街道を横断して赤山道に入り、鳩ヶ谷や川口方面に、また南方面は大相模の不動尊や吉川、遠くは成田山に、北方面は野田や宝珠花に通じるのである。

〔側面〕

此方の  
の  
道



〔側面〕

此方の  
の  
道

〔裏面〕

此方の  
の  
道

〔左側面〕

此方の  
の  
道

〔正面〕

萬延元庚申歲十一月建之  
申塔 (三猿)

〔台石〕

〔右側面〕

此方の  
の  
道

〔裏面〕

此方の  
の  
道

〔台石〕



※野田

※宝珠花

※大相模

※吉川

※成田

※鳩ヶ谷